

令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。	子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
【学校から】○「一人一人の子どもを大切にしたい指導」に関して、昨年度より保護者の「4」の割合が上がっており、児童・職員はや下がっている。感染防止対策や休校の影響もあり、十分な対応ができなかったと感じている職員がいると考える。また保護者・児童には「1」「2」の意見があることを重く受け止めた。○友達への思いやりは「1」「2」と感じている児童・保護者が減り職員は0であった。子ども同士のトラブルに職員がしっかりと関わってきたからではないかと考える。「1・2」の回答がなくなるよう、子どものつながりを大切にしたい学習や活動を今後も取り組んでいきたい。○子どもたちの心の成長を学校だけでなく、学級通信等で発信をしたことが保護者の「4」の割合が増えたことにつながった。今後も生活全般の中で児童の道徳性の涵養を図っていくよう取り組んでいく。		

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。
【学校から】○「意欲的な学習態度」については、「3」「4」の割合が少しずつ下がっている。感染防止対策のため、学習内容や形態が制限されていることも影響していると考えられる。○「授業作りの工夫」に関しては、そうした限られた状況の中で、休校中もタブレットを活用した授業づくりが進められたことで、保護者の「4」の割合が上がっている。しかし、児童に「1」の回答があるため、さらなる工夫をしていきたい。○ICTの活用においては、児童の「4」の割合が増え、また教職員の「1」「2」が0になるなど活用していくという意識の向上が見られる。また、保護者にもその内容が伝わる学習が少しずつできてきている。		

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。
【学校から】○昨年と同様に、保護者・児童・教職員で意識の差がある。健康教育部の各委員会の取組や健康教育を実施しているが、「1」と回答した保護者・児童がいることを真摯に受け止め、家庭・地域・関係機関と共に規則正しい生活の習慣化を目指し、保健便りのほか、各学年・各学級の通信なども通して発信していく必要がある。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

8 児童生徒理解
先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。

②特別支援教育の推進

9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

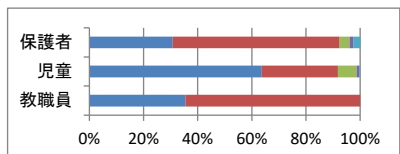
【学校から】○児童理解は、昨年度に比べ保護者の評価の「3」「4」の割合が増えている。しかし、児童の「3」「4」の割合減り、「1」「2」が10%近くあることは、重く受け止め、児童一人一人の良さを見つけ伸ばしていく必要がある。○「いじめや問題への対応」は保護者・児童の「4」の割合が減り、「2」「1」の児童が10%近くいる。この結果を真摯に受け止め、保護者・児童の声にしっかりと耳を傾け、信頼される学校になるよう今後も継続して取組を行う。○学校の支援体制への評価は、保護者の割合に大きな変化はないが、教職員は「4」の割合が増えている。困り感のある児童については、各担任から気づきを出しケース会議を開き、支援策につなげている。今後も、支援を必要とする児童への手立ての漏れを防ぎ、共通理解の徹底を行う必要がある。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

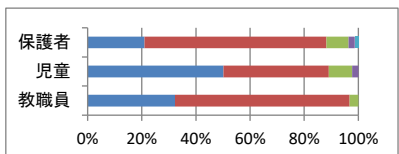
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



【学校から】○昨年度と比べ、「4」「3」の合計が、児童92%、保護者95%となった。地域の交通安全協会の方々を含め、多くの方々のおかげと考える。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

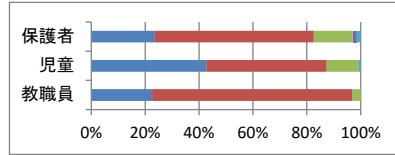


○本校は、増築・改築で、校舎や体育館を維持・管理している。安全点検をきちんと行い、日頃の安全管理をしっかりと行ってきたことで、保護者・児童・教職員ともに「3」「4」の割合が増えている。今後も、学校生活を営む児童や職員からの情報に速やかに対応していきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

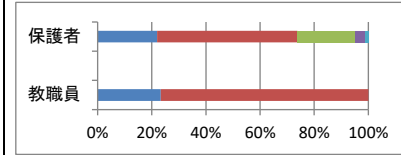
13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

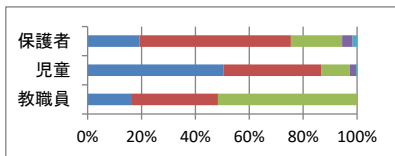


【学校から】○「教育方針・目標の理解」に関しては、児童・保護者に大きな変化は見られなかった。しかし教職員の意識は昨年度よりも高くなった。集会や懇談会等ができない中でも、学級での説明や指導はなされてきたと考える。今後も保護者に対して学校からより一層発信をしていきたい。○「家庭や地域との連携協力」に関しては、家庭訪問、授業参観、懇談会等が行えない中でも、教職員が積極的に保護者に関わってこうとしたことがわかる。保護者に寄り添い今後もより協力して子供たちを育てていくことができるよう家庭との連携を推進していく。

④本校の教育

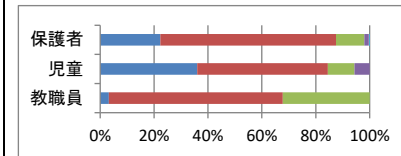
15 1 あいさつができる子供に育てる

子どもたちは、自分から進んであいさつをしていると思いますか。



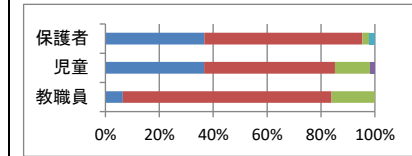
16 2 時間を守る子供に育てる

子どもたちは、時間を守って行動していると思いますか。



17 3 掃除に励む子供に育てる

子どもたちは、掃除を頑張っていると思いますか。



【学校から】○「あいさつ」に関しては、昨年度とあまり変わらない。今後も人と人をつなぐ「愛ことば」としてあいさつを進んでできる子供たちに育てていきたい。○「時間を守る子供に育てる」に関しては、84%の児童が「守れている」と自己評価している。今後、チャイムの時間を守り、さらに時計を見て次の行動を行えるよう、教職員も時間を守り、時間を大切にすることを伝え指導していきたい。○「掃除に励む子供に育てる」については、85%の児童が「頑張っている」と自己評価している。必要のないおしゃべりはかなり減り、どの学年も黙々と掃除に取り組むことができている。掃除に関しては保護者の評価も高く、学校での実践が家庭での子どもの姿に表れていると考える。

来年度の具体的な取り組みについて

○月々の生活目標と共に学校教育目標については「学校だより」やホームページ等を利用して、学校が大切にしている部分を随時情報発信していく。
 ○学習指導に関しては、コロナ禍の中でも子どもの意欲を高め、すべての子どもたちが学びに参加する授業づくりやタブレット端末活用の工夫等の研修、研究を進めていく。自校は、令和3年度にモデル校発表を行う。授業の中で「相手の考えを知り、理解する」ことを通して、「子供一人一人がつながる」授業づくりを目指している。自分を知ると共に自分とは違う他者を知ることは仲間づくりにとって不可欠である。そのためには、児童同士の考えを伝え合う時間の確保が大切でありICTの活用はその手立ての一つである。また、授業は、自分の言動が相手にどのように受けられているのかを学ぶ必要な時間であり、教職員も同じである。
 ○重点目標のひとつである「あいさつ」に関しては、人とつながるために、地域、保護者と連携し自分から進んであいさつができるようにしていく。私たちの龍田校区は地域の方々の地域教育力と関心・協力がとても高く素晴らしい地域である。コロナ禍で人と人とのつながりが希薄になっている時だからこそ、挨拶について考え、人とのつながりを大切にする態度を育てていく。
 ○重点目標のひとつである「時間を守る習慣化」に関しては、チャイムや時計を意識した態度を育てていく。また、時間を守ることで、休み時間や自分の時間の確保につながるなど、一つ一つ伝え習慣化させていきたい。
 ○重点目標のひとつである「掃除に励む」に関しては、今後も、「時間を守る習慣化」と共に、各職員や放送委員会の取組、主担当職員の放送など、一つ一つの手立てを継続していく。そして、黙々ときれいにしている子供たちの姿を各職員で褒めていくようにする。

学校関係者評価

○今年度は、子供たちとの関わりをほとんどもつことができなかったため、評価が難しい。
 ○コロナ禍で、子供も保護者も日常が大きく変化しストレスが大きい1年だった。学校でも、感染防止につめながらの教育活動は大変だったであろうと考える。また、保護者同士が関わる機会もほとんどなく、情報交換もできず不安に思われた保護者も多かったのではないと思う。
 ○コロナ禍という、難しい時期だからこそ学校と地域がつながっていく必要がある。学校でできないことが地域にはできるかもしれない。学校だけで解決を考えるのではなく地域の力を使ってほしい。
 ○ゲームによるトラブルが増えている。コロナ禍の中、家庭によっては子供にゲームを与えざる負えないところもあったかもしれない。ゲームやスマホの利用状況や内容などの児童の現状等を引き続き学校から出していただき、ゲームやスマホの使用の仕方についてはみんなで考えていく必要がある。
 ○あいさつは、まだ恥ずかしい様子である。こちらから声を出さないと子供たちからのあいさつがない。